

リスボン大学・東京農工大学 学術交流調印式・東大使挨拶文

2015年6月11日

アントニオ・クルス・セーラ（Antonio Cruz Serra）リスボン大学学長、
松永 是（まつなが ただし）東京農工大学学長、ご列席の皆様

本日は、「リスボン大学」と「東京農工大学」との調印式にお招き頂き、ありがとうございます。

皆様御存知のとおり、約470年前の1543年、日本に最初に到来したヨーロッパ人として、3人のポルトガル人が種子島に到来し、鉄砲伝来等ヨーロッパの文化が日本にもたらされました。このため、パン、ボタン、カルタ等のポルトガル語が日本語として現在も生きているほか、日本人は、小中学校で、ポルトガルのことを学び、大変親しみを感じています。

このように約470年に及ぶ友好関係の中で、昨年5月には安部総理の歴史的なポルトガル訪問、本年3月にはパッソス・コエーリョ首相が日本を訪問されました。

いずれも歴史的な意義を持つもので、安部総理のポルトガル訪問は、現職の日本の総理としては初めての訪問、また、パッソス・コエーリョ首相の訪日は、首相の訪日としては25年ぶりとなりました。

これら両国首脳レベルでの相互訪問により、日本とポルトガルとの二国間関係は飛躍的に緊密になっており、更に昨年7月に日本がCPLPにオブザーバー加盟したことにより、両国のCPLP諸国における協力関係強化も期待されております。

このような中で、昨年5月の安部総理のポルトガル訪問の際には「両首脳による共同コミュニケ」が公表され、大学間における学術的、知的交流を一層促進することも明記されました。また、本年3月にパッソス・コエーリョ首相が訪日した際には、「両首脳による共同コミュニケの進捗に関するファクト・シート」が公表され、同コミュニケに記載された取組の進捗状況が確認されました。

本日の調印式を契機として、学生や研究者の相互交流等による両大学の関係が強化が期待されるところでありますが、両国の学術・知的交流の促進を通じ、農業分野を初めとした日本とポルトガルとの二国間関係の更なる発展につながることをお祈り申し上げます。

本日は、ありがとうございました。